

週 報

こひつじ

第41巻 21号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

永遠のいのちによって生きる

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持つていることを、あなたがたによくわからせるためです。(第一ヨハネ五の一三)

その一 永遠のいのちとは

「これらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持つてい

ることを、あなたがたによくわからせるためです」

ヨハネが、この書簡を書いた目的が、ここに書かれている。それは何のためであったか。

「よくわからせるため」であつた

と言う。何をか。「あなたがたが、すでに、永遠のいのちを持っているということ」である。

では永遠のいのちとは何か。どんな性質をもったいのちなのか。

永遠のいのちとは、超自然的な神の介入によって、人手によらず、神から、与えられたものである。

だからこのいのちは、生まれながらのいのちとは本質的に違う。

生まれながらのいのちは自分を守る。自己保存型のいのちだ。自分の権利がそこなわれることを何よりもきらう。善か悪か、是か非かの法則に敏感に反応する。

ところが永遠のいのちは、善悪、公正のルールを超える。それに拘泥しない。

甘いものがまだ少なかった子ども頃、お菓子は決まって三等分された。そのとき私たち三兄弟は目を皿のようにしてナイフの行方を追った。公正な分配を求めたのだ。そしてそのあとじゃんけんをして、勝った者が、もつとも大きいと思われるものを選んだものだった。三人の間に譲るという考えはなかった。

それに対して、神のいのちは、公平の法則を超える。じゃんけんさえも超える。じゃんけんするくらいなら相手に譲る。

ペテロが、自分に罪を犯した人を何度まで赦すべきか、七度までか、とイエスに問うたとき、イエスは答えられた。

「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います」と。(マタイ一八の二二)

七度を七十倍と言われたとき、ペテロは、突然、計算できない世界に投げ込まれた。そして知った。それが自分の力の及ばない世界であることを。

イエスの要求は普通の計算を超えている、でも、それが神のいのちの性質なのだ。

『目には目で、歯には歯で。』と言われたのを、あなたがたは聞いています」(マタイ五の三八)

とイエスは言われた。これは「やられたらやりかえせ」という野蛮な復讐のように聞こえるが、はたしてそうか。むしろ報復が無制限に行なわれないための知恵なのではないか。

それは目をやられたら目まで、それ以上はいけないという「報復

公平の法」と言われるものなのだ。

それにもかかわらず、イエスは、「右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい」

と言われた。それによって「報復公平の法」を超える道を示されたのである。

そしてこうも言われた。

「自分を愛してくれる者を愛したからといって、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまいったことをしたのでしよう」

イエスが求められる愛もまた普通の基準をはるかに超えている。

そんな愛を実践することは、私たちにできない。生まれながらのいのちをいくら改善したところで、できない。

それとはまったく違う、別の性質をもったいのちによらないでは不可能なのだ。

そこでヨハネは言う。イエスを信ずるあなたがたは、そのいのちをもっている。この書簡を書いたのは、そのいのちをあなたがたがすでに持っているということを知らせるためなのだ。(続)

今日の礼拝

合同礼拝は午前一〇時半から。教会学校も一〇時半からです。

○ベイヤー・ドフ・アミリーの音楽と証。

真紀さんは米村夫妻の長女。夫のステイブ・ブンはコンピュータープログラマー。長女のメイさんは大学生、次女のリンさんは高校生です。アメリカ・テネシー州のジョンソンシティで暮らしています。

○説教は米村牧師。

○合同礼拝では人数が多く、過密になりますので、賛美は、なるべくマスク着用でやっていただき、説教を聞くときはずされてよいかと思ひます。

昨年度の報告書

○昨年度の伝道報告書ができています。受付で一部お取りください。内容は、

一、二〇二四年度の伝道報告
二、二〇二四年度の会計報告

三、二〇二四年度の行事記録

先週の礼拝

○司会は岩崎宏志さん。説教は

米村牧師。ルカ二章四〇節「神の恵みがその上にあった」から、イエスがご自分の使命を理解してゆかれる過程について語りました。

○入院中の小堀蘭子さんの病状についての報告が夫の徳廣さんよりあり、ともに祈りました。

先週の礼拝参加者

○礼拝参加者は、第一礼拝が二八名、第二が四五名、合計七三名(男二五、女四八)。それに子どもが六名、合わせて七九名でした。

○御船の高丸家を訪問中の外山夫妻(北海道帯広在住)が礼拝に出席してくださいました。二人はともに山形の独立学園の卒業生です。

長老会報告

○五月二五日礼拝後、長老会が

行なわれました。出席者は、岩崎夫妻、吉岡夫妻、米村牧師、以上の五人。議事内容は、

一、墓地の追加工事の完成報告。

二、八月一七日はKBIの富浦牧師家族による特別合同礼拝が計画されているが、それ以降は、礼拝参加者の賛成があれば、毎週合同礼拝を行なうことにしてはどうか。その場合、賛美の時間はマスク着用をお願いする。

三、工事について。

○最近の台風が大型化しているの、それに備えて会堂二階の東側の窓に雨戸を設置する。

○礼拝堂の内装、およびバリアフリーのトイレのための見積もりを再度お願いして、実施するかどうかは、その後、検討する。

○昨年(二〇二四年)度の伝道及び会計報告書をすべての会員に配布する。

以上のようなことが話し合われました。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp